



2009/4/1 No.50

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会

本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地

望みの門 方舟乳児園 開設にあたって



理事長 木下 宣世

新年度の歩みが始まりました。望みの門では今年度新しい施設が誕生しました。「望みの門 方舟乳児園」です。児童養護施設「望みの門かずさの里」に隣接する土地に木材をふんだんに用いた瀟洒な建物が完成し、去る三月二十八日に竣工式並びに開設式が開かれたのです。

開設式には百名もの方々が参列して下さい、励ましの御言葉を与えてくださいました。この事業に対する期待と関心の大きさを感じさせられた次第です。

言うまでもなく乳児園は生まれて間もない赤ちゃんを預かり、養育する施設です。本来、この世に生を受けた赤ちゃんは自分を生んでくれた両親に育てられるべき存在です。それが彼らの幸せです。

ところが、今日私たちの社会では様々な事情から親に育ててもらえない子どもが増えています。現代は子どもたちにとって不幸な時代であり、子どもにとっては受難の時代であると言わざるを得ません。

この千葉県でも乳児園の数が足りなくて待機している子どもたちが沢山いるとのこと

です。このような状況にあつて望みの門に乳児園を開設するようにとの要請があり、私たちはそれをお引き受けしたわけです。

しかし、これは安易な気持ちでお受けできるような事柄ではありません。精神的にも身体的にも重荷を負った赤ちゃんたちを果たして丈夫に育てていけるだろうか、或は彼らが育っていった時自分たちのアイデンティティーをどのように確立させていけるのだろうか等々多くの不安を感じます。逡巡する思いもあります。

開設式に続いて素晴らしい講演をしてくださった明治学院大学の北川清一教授に私は思わずこのような質問を致しました。「先生、親から切り離された子どもたちを他人が育てることができるのでしょうか。」北川教授は「できます。」と即座にお答えになりました。私たちが本当に愛情を注いで育てるなら、彼らは育つと言われたのです。

この言葉は私にとっては救いでした。望みの門は困難な事業に取組むことになりました。しかし、これを神さまから託された使命と受け止めたと思います。そして微力ながら精一杯の愛情をこめて幼な子たちの養育に努めたいと思います。私たちがこの重い責任を果たして行けるよう、皆様のお祈りと御支援をよろしくお願い申し上げます。



園長就任のご挨拶

婦人保護施設 望みの門学園

園長 佐野 毅

このたび、四月一日付にて、望みの門学園園長の大役を仰せつかりました。

初代園長 木下ドーラ先生、二代目園長 吉田和子先生、三代目園長 坂井順子先生の偉業を引き継ぐことの責任の重さを痛感しております。

望みの門学園が創設されましたのは昭和三十七年。その年の七月に私がこの世に生を授かりましたことを思えば、私の人生そのものが、望みの門学園の歴史と時代背景が一致することになります。

幸いにも、前園長の坂井順子先生が、そのまま学園に残られて、従来どおり学園の利用者さんの指導ならびに学園職員の良き相談役となっていたいておりますことに感謝いたしますとともに、望みの門のはたらきを思えて陽に陰にご支援くださる多くの方々に深く感謝の意を込めまして、就任のご挨拶いたします。今後ともご支援ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



事務局就任にあたって

法人事務局 事務局長 西尾 建

私が、のぞみ会に就職したのは今から一二年前、介護員等を経て現在の事務局に配属されてから気付けば、のぞみ会での半年の六年半が過ぎていました。事務局での勤務の中で、近年強く感じていることはのぞみ会の業務が急速に拡大し、それに伴って事務量、職員数も増大してきており、事務局の果たす役割が非常に大きくなってきていることです。

そんな中でこの大任に就かせて頂くことは非常に大きな責任が伴うことと痛感しております。

のぞみ会の施設・事業所数は一三、職員数は約一六〇名となり、事務的に整備することは山積しています。しかし、これらを処理していくことは勿論ですが、理事長・常務理事を始めとする役員の思い、役員会等での決定等を具体的な方策として職員に指し示していくことが重要なのではないかと思っています。のぞみ会の大きなパワーが分散することなく、同じ方向に向けられるように。常に法人の設立の精神に立った運営がなされるように。

人生経験も少なく、未熟な者ではございますが、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。



園長就任にあたって

乳児院 望みの門方舟乳児園

園長 田尻 隆

「子どもが育つということは、未来が育つということだ。おまえはその未来づくりに関与してんだ。いい仕事見つけたな。」

(矢野健太の父の言葉より)

このたび、のぞみ会の先人が四十七年にわたり東京・富津の地にて積んできた宝を引き継ぐこととなりました。神さまの大きな恵みに感謝するとともに畏れをも感じます。これから出会う幼子にキリストの愛をもって伝え、この方舟が新しい神の家族として大きく成長させて頂きますよう祈る者です。そしてこの望みの門の働きを正しく次世代に引き継いでいくことが私たちの大切な使命であると考えます。

職員は一〇名。うち四名は新社会人というフレッシュな顔ぶれです。お互いに違いを認め合い、助け合いながら、子どもからいろんなものをもらい「いい仕事見つけた」と胸を張って誇れるような運営を目指したいと思います。

子どもたちは九名。施設と呼ぶにはまことに小さな群れです。これまでの施設「らしさ」を廃し、方舟独自の「らしさ」を模索していきたいと思えます。そこからは新しい香りが生まれてくることでしょう。それがキリストの香りとなるようお祈りください。

発光ダイオード付き十字架と 創立四〇周年を迎えた 望みの門楽生園



常務理事

井本 義孝

三月二八日、県下四番目の乳児院である「望みの門方舟乳児園」が竣功オープンした。昨年十一月に入札、着工した純木造二階建の木の香やさしいホームである。延床面積は約三八〇㎡、ホームエレベーターを設置、二階ホールは応接室予定であり、住込用居室とゲストハウス（各二DK）が設置されている。四八五〇㎡の敷地は広々として、眼下に

浦賀水道を望む位置にある。いづれ張芝が活着すれば緑の樹々に囲まれた赤い屋根の建物は美しく調和するところとである。特筆すべきは塔屋の十字架である。夕闇



せまる頃になると、発光ダイオードが美しく輝き、幼子の成長を見守るかのようだ。九日には東京の乳児園に委託されている一人名が入園する。対する職員は一〇名。原則二交代制の夜は二名勤務で、少数定員を生かし、家庭的処遇につとめたい。



さて、片や創立四〇周年を迎える「望みの門楽生園」は一九六九年四月一日に開設されている、小職が着任した当時、初代園長であられ、法人創立者のお一人の木下弘人先生がお元気でよくふらりとお立寄りになった。開設当時は、現在の職員宿舎前の畑地に二階建の木造だったという。それが塩害と老朽化により、二二年後の一九九一年現在地に地下一階地上二階建の鉄筋コンクリート造りとして新築されたものであり、特筆すべきは今では珍しくないが、全室床暖房、利用者居室全部個室という当時としては思い切った構造で関係者の見識と英断に感銘する次第である。千葉県で最後の養護老人ホーム（以後は

全て特別養護老人ホームとなる。）となった楽生園は設立当初から老後の終の住処として設計され、今まで家庭で大黒柱であった方、永らくお働きになられた方々の安住の地となるように配慮されていて、それは今になるまで喜ばれている。

扱て、楽生園も最近では車椅子生活の方が八名となった。人は立つより座り、座りより寝る方が楽に出来ている。車椅子にずっと座りっぱなししていると当然脚の筋肉がおちてしまふ。いわゆる廃用性萎縮なる現象が著明となる。おりしも、紫苑荘一階に出来た広いホールを「介護予防センター」として活用したい旨市当局に諮ったところ、時機よく行政ニーズと合致することとなった。そのため事業予算二五〇万円が用意されるとのこと。従って今後は地域サービスは、「デイセンター」等に加わえ、介護予防センターが登場した。これは職員の福利厚生にも役立てる予定で、現在、自転車二台、ヘルストロン二台、が待機中である。間もなく二年目の田植えがはじまる。作付面積は昨年と変わりませんが、美味しい「お米」をお届けしたく準備中。ついでに新生舎では生活額が一万円の大台を突破したので、消費税が課せられる。心身にハンデキャップのある人の販売に課税するとは嘆かわしい思いで一杯になる。わが祖国日本のダメ振りを嘆く前に、障害者の方々が健常者とされる人々と、同等の扱いをされることを、喜ばなければならぬ時代なのであるうか。

特別養護老人ホーム 望みの門紫苑荘 個室等増築及び避難路耐震工事竣工の報告

施設長 簾 昭博

さかのぼること、二年、平成一九年二月より望みの門の近未来構想を練るための五回の戦略会議がもたれ、その構想の一つとして紫苑荘の個室等増築及び避難路耐震についての検討が成され、同年九月の第一六回評議員会にて事業計画として承認されました。

今回の工事は、増築と避難路の耐震補強ということで、平成八年度耐震診断に対する避難スロープの補強改善と増築部へ二人部屋を四室、個室を一二室が確保されました。結果として望みの門ショートステイサービスが、六名増の一〇名での運営へと拡大されています。

工事期間中は、既存の施設と増築部分の接続に際して、利用者の方々が使用している生活空間の一部を工事エリアとして明け渡しつつ、限られたスペースの中で生活環境を整えながら、



いかにスムーズに工事をすすめていくかということが最も気を使った所でもありますがし、実際苦勞した所でもありません。利用者の方々には、騒音と幾度とない居室移動を強いることになり、その都度ご理解ご協力をいただいてまいりました。当然スタッフの協力無くしては成し得なかったことです。お陰様をもちまして、工事期間中は事故や災害に見舞われることなく、無事、平成二二年二月二四日に竣工を迎えることができました。式典には、佐久間清治富津市長を始め、千葉県健康福祉部高齢者福祉課施設福祉推進室椎名忠則室長及び近隣高齢者施設、京葉後援会等の総勢五四名の来賓列席を賜りました。

はじめに、施工中のすべてを見守ってくださった神様に、感謝を申し上げます。また、工事を担当されました施工者の皆様、そしてそれぞれの立場で工事に携わってくださいましたお一人お一人の方に感謝を申し上げます。さらに、工事中多大なご迷惑をおかけした利用者の皆様の良き理解とご協力に対し、



心から感謝を申し上げ報告とさせていただきます。

追伸、是非お気軽にご見学ください。ご利用の際には、案内させていただきます。

婦人保護施設 望みの門学園

ニースタート

主幹 坂井 順子

わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。

聖書 「リント」 3・6

桜の開花が間近な今日、利用者Aさん運動の初ドライブを楽しみました。あと数日で学園を退所する彼女の満面の笑みは、入所時には考えられないことでした。

幼児期、両親の虐待によって、つらい生き方を強いられた彼女が学園にきたのは一年九ヶ月前でした。人との関わりを避け、学びも就労も挫折した彼女が学園での生活をいつまで続けられるかが、関係機関の方たちの心配でした。が、彼女は、ホームヘルパー二級の資格を取得したことが、自信に繋がりました。スーパリーのレジ係りとして、往復六キロ余りの道のりを一日も休まず自転車通勤。「将来子供たちの施設で働きたい」と夢を与えられました。そして四月から乳児園で職員として採用されることになりました。高校の通信教育も再開する手続きをしています。私達は、種を蒔き、水をやることしかでき

ませんが、正に育ててくださる神様に感謝です。

もう一つ嬉しいことがあります。学園から徒歩十分の所に学園ファームが出来ました。利用者の生きがい活動のために広い畑を与えて欲しいとの祈りが応えられて、地元の方々のご協力により、四百坪の土地を無償で貸していただくことができました。背丈ほどの雑草や、大きな松の木などを取り除き、石灰をまいて耕しました。もう直ぐ種まきです。

「とうもろこしを作りたい」「スイカ」「ブロッコリー」とうるさいこと。「三分の一は、花を作って施設中を飾りたい」。「今まではいつも人からしてもらってばかりだったけど、お花が売れたらピーターパン基金に献げたい。何か人のために役立つことをしようよ」と話をしています。

私達は、多くの方に祈り支えられていることを感じながら、利用者への支援を続けています。



養護老人ホーム 望みの門楽生園

「おくりびと」として思うこと

主幹 田尻 隆

映画「おくりびと」の第八一回アカデミー賞外国語映画賞受賞は、不況で自信喪失気味の日本人に勇気を与えてくれました。就職先を探している主人公は「旅のお手伝い」という文句と給料等の条件に惹かれ、旅行代理店か何かだろうかと考えながら面接に向かったところ即日採用となります。しかしその業務内容は納棺であり、社長曰く、広告は誤植で、本当は「安らかな旅立ちのお手伝い」のはずだったと聞かれます。「死」という暗いテーマを取り上げながらも人々の心に強く訴えかける名作で、世界に認められた「日本の実力」と言えるのでしょう。

昨年五月望みの門楽生園に着任しこれまでお二人の姉妹を天国にお送りしました。心の準備もできぬまま急に旅立たれたお二人から残された私たちは「死」の意味を静かに考える機会を与えられたのだと思います。近年、私たちの身の回りでは「無添加・自然」と体に良いことを強調した食品が販売されています。街ではウォーキングやジョギングをしている人をよく見かけます。抗菌グッズもよく売られ、空気清浄機などでほこりやダニを除去しようと、目に見えないものにまで気を配ることが勧められています。これは先進国共通の傾向のようです。一方その結果、肉体的

のおよび精神的な健全さと若々しさを強調する価値観が浸透し、逆に不潔なものの健康を損ねるものが強く忌避されるようになってきました。さらに病氣や老いは全くの負の価値をもつだけのものと語られるようになっていきます。しかし、完全な無菌社会ができるわけでもなく、病氣や死を完全に避けることができないわけでもないのですから、極端なヘルシズム（健康至上主義）が逆に問題を作り出すということが起こってきています。私たちの文明は今まで何とかして病氣を克服し、老いを遠ざけようとしてきました。しかし老いを否定し高齢者を保護すべきものととらえてしまふ視点では、現実に行進する高齢社会自体を否定しなければならぬということになってしまいます。

この楽生園に集う利用者・職員が織りなす一つひとつの出来事はどれも大切に懐かしい思い出です。召された姉妹は自らの思想を語ることも、深い思索をすることもありませんでしたが、まわりに笑いと喜び、安らぎを与えるかけがえのない存在でした。みもとに召された今、姉妹は私たちに何かを語りかけてやみません。生命の尊さと、限りある生命をいかに生きるか、それを私たちに問いかけているように思えます。「はじめまして、おはよう、ありがとう、いただきます」そんな何げない言葉一つひとつが愛おしく感じられます。今日をしっかりと大切に生きよう、明日もまた生きていこうと思うこの頃です。

(三月三十一日)

知的障害者通所授産施設 望みの門新生活

『海外の施設で共感』

主任事務員 鈴木 良子

平成一八年四月より自立支援法が施行され早三年。この間、法の円滑な運営のための特別対策・障害者自立支援法の抜本的見直しに向けた緊急措置など、数々の見直しや改正が行われ、利用者負担の見直しや事業者に対する激変緩和措置・経営基盤の強化が図られてきました。今年度は「法施行後三年の抜本的見直し」の年となっており、年度末には制度改革のための事業所説明会が数回実施されるなど、新年度を迎えるにあたってその対応に追われる日々となりました。この「法施行後三年の抜本的見直し」が利用者やその家族、また、サービス事業所にとつて「もっと判りやすく」「もっと使いやすい」「もっとなじみのある」法制度に見直されることを期待したい。



さて、表題の「海外の施設で共感」ですが、昨年の秋に法人から海外研修に参加する機会を得ました。行き先はオランダ・フィンランド・イタリアの三カ国。いずれも福祉文化では先駆的な国で、施策や施設の在り方・地域との共存・何より福祉に対する国の考えが伝わる様なそんな施設を見学させていただきました。なかでもヘルシンキにあるリュヒュトゥ職業訓練・文化活動施設では私の心を揺さぶるような刺激があったのを鮮明に覚えています。「その人が持っている力を最大限に活かし、社会に参加する」というもので、音楽活動に特に力を入れ、音楽の世界で働くことを目標に様々な技術を学びプロを目指しているそうです。バンドを結成しCDも販売するほどの腕前を生演奏で聴かせていただきました。ちょうど研修に出発する当日は、望みの門新生活舎では今年初めて作った稲を刈り取る豊年感謝祭でした。休耕田を三年かけて開拓し、五月に初めて田植えをし、ついに収穫するという記念すべき日でもあったのです。刈り取った稲を目の前に、利用者が誇らしげにしている姿が目につかび、リュヒュトゥ職業訓練施設の利用者が一生懸命に演奏する姿とオーバーラップして映り、感動して涙が止まりませんでした。フィンランドにおける障害者への職業教育には職員の専門性や努力に高い信頼が置かれているといえます。利用者の視点に立ち、焦らず、心にゆとりと広い視野を持った支援を心がけ、私自身、まだまだ努力していかなければと改めて感じま

した。考え方や人間性、文化的な違いはあったとしても、福祉において「社会参加」という目標は世界共通。私たち望みの門新生活舎の利用者に対する支援や思いというのは間違っていないと改めて実感することとなりました。また、障害者の自立支援に携わる者として訪問した国の方々も全く同じ思いで携わっていることに感動し、私自身に大きな自信と誇りを得る研修となりました。「一人ひとりの力は小さいけれどみんなで力を合わせれば大きな力になる。」また、その小さな力を育て、育むことのできる支援者でありたいと考えています。最後に、海外研修という貴重な機会を与えていただいたことに厚くお礼申し上げます。

一体型共同生活介護事業所 グレースホーム

今年の冬「グレースホーム」のクリスマス

副主任世話人 樋口 千恵

グレースホームでは、一月三日から一月四日と恒例となっている残留者一泊旅行に行ってきました。旅行といっても、場所は市内の旅館でゆっくり過ごそうとの趣旨、迎えるバスで一〇分ほど到着です。

迎えてくれるのは、すっかり顔見知りとなった女将さん方です。「今年も元氣にお正月を迎えられて良かったね。」という大歓迎をうけ、早速、利用者さんは、お肌スベスベになると評判の温泉を満喫していました。また、宴会では食べきれないほどのご馳走と、

カラオケで大いに盛り上がり、大満足でした。ゆっくり過ごしたお正月を終えて、翌日の五日は仕事始め。それぞれ職場や新生舎、ヨカデイへ元気に出かけ新しい年のスタートを切ることができました。年末のクリスマス会・忘年会・帰省、新年の残留者一泊旅行と、大きな行事が続くなか、全員風邪もひかず、元気に過ごすことができたのは、これも日頃からの手洗いとうがいの励行が功を奏したと、世話人一同喜んでいたところです。

しかし、この後、グレースホームは大変な状況に陥ることとなったのです。一月中旬、恐れていた風邪が流行りだしたのです。一人二人と咳から通院・静養。次の日には別の利用者さんが咳・微熱・通院。その次の日も。ほぼ毎日の通院で、一九名の利用者さんの内、一二名の方がお医者さんから「一日中活動禁止の静養」という指示がだされ、最悪の事態になってしまいました。せめてもの救いは、幸いにもインフルエンザではないとの診断がだされたことです。今回の風邪は高熱や嘔吐・下痢といったひどい症状がない代わりに、とにかく長く続く風邪で、全員が日中活動復帰できるまで、約三週間を要しました。通常、朝と夜を重点的に支援にあたる世話人ですが、この間は日中も交代で四ヶ所の共同生活起居を駆け回り、昼食や通院対応の日中支援に追われることとなりました。ようやく元気で元気ある毎日に戻ったと思った二月下旬、再び四名の方が静養。現在も一名の方が静養中。

この冬、風邪をひかず元気に過ごせた利用者さんは五名のみ。現在六〇歳以上の方が半数を占めるグレースホーム。普段、利用者の皆さんは気が若く元気なので、そんなことは感じませんが、利用者さんの体力は、一年ごとに低下しつつあることを、痛感した今年の冬のできごとでした。

これから春を迎え暖かくなりますが、利用者さんの健康を第一に考え、毎日個々の体調の変化を見逃さず、明るく楽しい生活を送ることができるよう頑張りたいと思います。

地域活動支援センター 望みの門ヨカデイサービスセンター

日本の天使たち

私たちにはアーティスト

副主任指導員 南雲いずみ

昨年、一一月末に開催された『南アフリカと日本の天使たち』に利用者の皆さんが一生懸命に作られた作品を出品し、大好評でした。作品はリサイクル毛糸の「もこもこマット」、チラシで作った「ペン立て」、ビーズの「コースター」です。それは、ヨカデイサービスセンター開設当初から、利用者の皆さんがこつこつと作ってきた作品です。どの作品も利用者さんの感性と想像を超えた偶然が織りなすハートで、世界に一つだけのアートです。その作品を、多くの人たちが見て、手にとって「ステキですね」という言葉を頂いたことは大変に嬉しいことで、とても励みになりました。

この一つ一つの作品には、不要になったセーターをほどこく人、毛糸を巻いて横糸を作る人、ビーズの色の選別をする人、チラシをきれいに延ばす人、チラシを巻く人がいて、出来上がった作品を袋に詰める人、タグを付ける人、そのタグに心を込めて絵を描く人がいます。作品ができるまでを支えている皆さん一人一人がアーティストです。みんなで力を合わせて一つの芸術作品が生まれます。この作品は今までの人生を頑張ってきた、今こ

最近、新たに「カラフルアクリルたわし」「膝掛け」「帽子」の作品が加まりました。みなさんの心を揺るがす作品があるかもしれません。見に来ていただけると幸いです。新しい年度を迎え、今まで以上に自分らしく

生きる利用者さんの皆さんと寄り添って、人生が楽しくなるような活動をして行きたいと思っています。これからみなさんのご支援とご協力をお願いします。



望みの門ホームヘルプサービス

ホームヘルプサービスの今昔

サービス提供責任者 鈴木 美子

望みの門ホームヘルプサービスについては、訪問介護事業所として、平成一二年四月にスタートしました。私は、平成一三年一月に着任しましたが、今でも、頭をよぎることは、採用時の面接で『あなたは、望みの門の看板を背負っているのですよ。』の言葉が忘れられません。

初めて訪問介護で利用者さんのお宅を訪問した時は、緊張の上に、要領の良く分からず、まごまご、どきどきの連続でした。

当時の状況ですが、私を含めてわずか三人の訪問介護員で、訪問介護（活動）をしておりました。利用者数も一ヶ月一二人〜三人平均であり、掃除・買物・調理の生活援助がほとんどでした。

現在、訪問介護員は、常勤ヘルパー一名、非常勤登録ヘルパー五名と倍増し、利用者の月平均利用者数についても二四〜二六名となり、就職した頃のヘルパー・利用者さんの人数についても倍増の状況となりました。

又、当時は、想像もしていなかった事です。が、二〇年度より、利用者のニーズに応えるべく、サービス提供時間についても、早朝六時〜八時、夜間一八時〜二二時の延長サービスも実施しております。

更に、介護予防訪問介護サービスについて

も、平成一九年四月より開始することになり、現在は五名の要支援の方が利用されています。

望みの門に就職して、ようやく丸八年が過ぎました。長かったような短かったような気がすると共に開設当時と現在の状況を見ると、昔日の感が致します。

在宅での生活する利用者の方々と出会い、自分らしく気ままに生活されている皆さんは、どこか心理的な悩みを抱え不安で押しつぶされそうな気持ちを私たちにぶつけてきます。人と人の出会い、信頼関係を築き、安心して生活できるよう援助していくことがヘルパーとして望まれることだと痛感しておりますが、利用者から「ありがとう、お世話様」の言葉をかけていただくことは、本当にヘルパー冥利に尽きます。

訪問介護は、在宅で暮らす高齢者、ご家族の方にとっては、なくてはならない存在です。今後とも、利用者の人格を尊重し、質の高いサービスの提供を心がけ、生活の援助者として、人を思いやる気持ちと、声なき声に耳を傾け、心の援助ができるよう「望みの門の看板を背負って」精進していきたいと思っております。



児童養護施設 望みの門かずさの里

養育は自分との闘い

保育士 鈴木 雪江

日増しに春らしくなってきた今日この頃、かずさの里にも多くの春が訪れています。高次入学者が二名、中学一年生が四名、小学一年生が三名と、各々の思いは違えど新たなスタートを迎え、賑やかな毎日となっています。

日々の暮らしの中で、小学生・中学生と過ごすことが多い私にとり、春は自身との新たな闘いの始まりでもあります。幼児（五名）との関わりとは又異なった自身の覚悟がそこにあるように感じます。日々の安心・安定した暮らしの保障はもちろんですが、一人ひとりとの信頼関係をどう築くか大きな仕事です。

各々の短い人生の中で抱えた事由・背景を、私自身の頭と胸にきちんと刻み、子どもたちの言動の表と裏をどう受け止め・見極め、どう応えるのか、肝っ玉かあさんが望まれます。「何でそんな事を言うのかな。内心は違うよね!」こんな思いから始まり、「何を受け止めてあげれば、どう向き合えば?」また裏腹には「私の伝えたいことをどう受け止めているんだろうか?」との思いが交錯する葛藤の日々でもあります。

子どもとの暮らしの中で心がけているのは、一人ひとりが社会に出たとき、とりわけ人間関係で困らないように、身近にいる大人

として責任を持って関わることです。道徳心を養い、きちんと人と関われる強さ・優しさを身に付けてほしいと願ひ努めています。

それゆえ口うるさいおばさんを承知で臨むことも多々ありますし、「解ってるよー」の怒りを含んだ一言で片づけられてしまう場面も少なくありません。子どもの目線を探り、自身の思春期を思い起こしながら、持ち得た引き出しを全開にしての闘いです。

「子どもが好き」というだけでは越えられない難度の高い養育現場を改めて自覚し、許される範囲での試行錯誤を繰り返しながら、子どもたちのために、更に自身と闘いたいと思います。

児童自立援助ホーム 東京望みの門マナの家

生活指導員 長原恵理子

二月二日「東京望みの門」に悲しい知らせが届きました。それは、退寮生のYちゃんが、亡くなったという知らせでした。持病の喘息の発作を起こし救急車で病院に運ばれ、心肺停止になり意識が戻らないまま亡くなったということでした。Yちゃんは、二月三日に久しぶりに寮に遊びに来て、同じ時期に寮生活を送ったAちゃんとの七年ぶりの再会を喜んだばかりだったので、私達職員にとって、とても信じ難い知らせでした。

Yちゃんは七年前に、一七歳で「東京望みの門」に入寮しました。家庭の複雑な事情に

より、小さい頃から養護施設に預けられ、また家庭に戻されるなどしていましたが、自立の必要に迫られ望みの門にきました。「モーニング娘」のオーディションの三次選考まで残った経験があったと言うとおり、小さくて可愛い、ピアノと讃美歌が大好きな甘えん坊のYちゃんでしたが、そのあどけない容姿とは裏腹に、自分の感情をコントロール出来なくなると、リストカットをしたり、物を投げするなどして暴れたり、警察に補導されたりと、強烈な存在でした。間もなく、Yちゃんには医療による専門的なケアが必要とわかり、治療を受けるために退寮となりました。

その後、入退院を繰り返しながらも、一人で生活出来るようになったYちゃんから久しぶりに「遊びに行きたいですか？讃美歌と一緒に沢山歌いたい」と連絡が来たのは、今年の初めのことでした。一七歳で寮に来たYちゃんは二四歳になっていました。キリスト教の養護施設で生活した経験から、讃美歌を沢山覚えており、在寮中は近くの教会の礼拝にも出席していたYちゃんの一癖好きで讃美歌三九一番「ナルドのつぼ」を七年ぶりに一緒に歌うことが出来ました。

あまりにも早すぎるYちゃんの死ですが、Yちゃんは今や苦しみや悲しみ寂しさから解放され、神様の御許で平安を得ていることと信じております。復活の主キリストにより与えられている信仰と希望に支えられ「東京望みの門マナの家」の歩みを祈りをもって続けて参りたいと願っております。

中核地域生活支援センター 君津ふくしネット 相談支援事業の 「難」を「やがら」

障害児（者）コーディネーター

大谷 実慧

中核地域生活支援センター君津ふくしネットに配属されて約一ヶ月。

相談支援の現場では、見るもの聞くもの、全て初めてのことがばかりで戸惑いの連続の日でした。

地域の多くの方々との関わりから教えていただく事も多く、日々新しい出会いに感謝すると共に「繋がること」の大切さを実感しています。

障がいを抱えた方からの生活相談、DV（ドメスティックバイオレンス）、生活困窮、多重債務、居場所がない等の「生活のしづらさ」を感じていらっしゃる方、その中でも「制度の隙間」に落ちてしまひ、どの福祉サービスにも該当しないで困っている、というご相談も数多く寄せられています。

この一年間の相談支援活動を通じて、ご相談者のみならず、ご家族も含めて「複合的な問題」をご家族全体で抱えており、行政機関を含めた総合的な支援が必要な方々が多くいらっしゃる事に気がつかされました。それと同時に、どんな事態が悪化していく「状態悪化の悪循環」を繰り返されている方を前にして、「私たちはどのようにご支援していくたら良いのか」、やるせなさともどかしさを

感じる事もありました。

相談支援活動をしていて「これで良かったのだろうか。」と、自問自答する事も多くあります。ご相談者の口から発せられる「何気ない一言」には、問題解決に結びつく重大なキーワード（意味）をいくつも含んでいることが多く、また私たち支援者側の言動によつては、ご相談者の今後の生活の方向性を大きく左右してしまう事があるのだと痛感させられる事もしばしばありました。

ご相談者にとって「何がベストな解決方法か」と考えた時に、「正解は一つではない」と感じています。相談支援の過程の中で、ご相談者と私たち支援者とが共に「同じ方向を指して」同じ痛みを分かち合いながら、問題解決に向かって一步一步前進していくことが大切なのではないかと思っています。

「自分を生きる為に自立する。」これは、ある精神障がいを抱えた方が仰っていた言葉です。今まで自分自身のことを受け入れられず、自ら命を絶とうとしたり、薬物等の依存症になった方々。しかし、少しずつではあるけれども、また一歩踏み出そうとされている方々。「自立」の仕方も様々で、「何か特別なことをするのではない。同じ時間を共有し合う。そこに居るだけで良い。」という捉え方も、「自立」へのステップなのではないかと思えます。住み慣れた地域で、その人らしく安心して生活を送ることができる基盤作りを進めていくためには、地域の方々の理解が不可欠です。それと同時に「共に支え合って生きている。」

という視点も忘れてはならないのだと思います。

「笑顔が曇った時には助けを求めること。お互い様。」という言葉かけ。「自分を生きる」というご本人の思いに寄り添い続ける事が大切なのだ、としみじみと実感している日々で

日本財団助成事業完了のお知らせ

このたび、競艇の交付金による日本財団の2008年度助成事業の助成金を受けて、下記の事業を完了いたしました。

ここに事業完了のご報告を申し上げますと共に、日本財団を始め、ご協力を賜りました関係各位に謹んで感謝の意を表します。

記

1. 事業名 乳児院の整備／民家改修
2. 事業総額 68,985,000 円（うち助成に係る事業総額 17,000,000 円）
3. 助成金額 11,700,000 円
4. 施設名称 乳児院 望みの門方舟乳児園
5. 施設所在地 千葉県富津市湊 705 番地
6. 完了年月日 2009（平成 21）年 3 月 30 日

社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会
理事長 木下 宣世

編集後記

す。まだまだ未熟者で分からない事だらけですが、「繋がり」を大切にして、これから日々精進して参りたいと思っています。今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

春爛漫、あちこちで花見の計画。学園では生憎強い風の日にあたった。日に晴雨あり、道に儉易ありだ。新規採用者一五名、内訳大学院卒二名、大卒一名、短大卒一名、専門学校三名、転入者八名であり、職員総数一六二名となった。福祉業界は景気が良いとの噂。景気の好し悪し、好不況は利益追求を第一義とする企業の世界。福祉は公益優先であり、需要に応じて、対応するのが道。利潤は結果であるが損失は許されぬ。楽生園は創立四〇周年を迎えた。一〇人は車椅子生活である。健康で老いることの難しさ。紫苑荘一階に介護予防センター開設は内向きにも適切。法人も望みの門方舟乳児園スタート。春は正に酣。四月十二日はイースター。学園の手作りランチを囲んで愛餐会。立派な挨拶をされる学園生。息子さんと娘さんの進学を語る母親。人の情・神の愛は涙を誘う。人を信じ、神を信じる群れとして歩みたい。

本号をもって五十号となる。先人の労を偲びつつ五十号の意義を噛みしめる。